

小学校社会科から始める思考力や表現力を育成する学習指導  
～少人数学級における学習課題やグループ活動の工夫～

柚木 崇

(教職リーダーコース E203C007)

## 1 問題

### (1) 小学校社会科における課題

ベネッセ教育総合研究所第5回学集基本調査(2015)に「教科の好き嫌い」を問うものがある。「好き」「まあ好き」「どちらでもない」「まあ嫌い」「とても嫌い」の5択で回答するものである。「好き」「まあ好き」を肯定的評価と捉えると、社会科の肯定的評価は、55.6%であった。これは小学校10教科中で最下位である。「授業理解度」についても、「ほとんど分かっている」「70%くらい分かっている」と回答した児童は、あわせて72.0%である。これは他の教科に比べ、理解度の割合が低い。また、学研教育総合研究所「小学生の日常生活・学習に関する調査」(2019)には、「一番好きな教科は？」との質問がある。これによると「社会科」と答えた割合は、小学校主要4教科(国語、社会、算数、理科)の中で、最も低く3.4%である。このような状況の原因として、「語句の暗記に重点を置いた授業が多い」「歴史上の社会的事象と関連づけたり総合したりして学習していない」などが考えられる。

### (2) 少人数学級・個別指導における課題

沖縄県立教育センターへき地教育センターへき地教育研究室(2021)によると、少人数学級の長所は、「素朴である(36%)」「明朗で人なつっこい(22%)」「児童生徒が親密である(14%)」などが挙げられている。また、課題は「馴れ合い的な生活態度である(24%)」「自他に対する厳しさが足りない(18%)」「表現力が不足しがちである(12%)」などが挙げられる。(百分率は全体における割合:複数回答可)このことから、少人数学級の子供たちは、近い人間関係はとても良好であると言える反面、自分を表現したり粘り強く学習を進めていったりすることに課題があると言える。

また、川前・玉井・二宮(2019)によると、小規模校では、教師が関わりすぎたり子供同士が馴れ合いになったりする場合もあるため、いかに自己教育意識や相互教育意識を高めさせるかが課題である。このことから、教師の子供に対する関わり方や子供同士の学び合いに少人数学級における課題があると言える。

このようなことから、少人数学級では、授業中でも他の時間でも、教師が一人一人をよく見て個別指導が行える反面、見えすぎて手を入れすぎてしまう傾向があると言える。

### (3) 本校の課題

本研究の実践を行った6年生児童は、入学当時から少人数の学年であるため1～5年生までは複式学級であったが、今年度は小学校入学以来初めて単式学級となった。本校の複式学級では、複式担当非常勤講師が多くの教科を担当しているが、6年生児童の4・5年次の学習では、主要教科における担任との学習上の関わりが薄いという課題がある。また、複式学級では、各学年の教科の授業時数が違うため、時間割の作成がとても難しい。時数確保が優先されるため、児童の実態に合った時間割にならない場合も見られる。

### (4) 目指す児童像

本校の課題や小規模校における課題などを踏まえ、「社会的事象から総合的に考える力」

や「意見を伝え合う表現力」に課題があると考えた。そのために、思考力や表現力を育成することが必要であると考え、次のように目指す児童像を設定する。

### ①目指す児童像(6年生)

小学校6年生の社会科を通して、学習課題を社会的事象から総合的に考える思考力や友達と意見を伝え合う表現力をもつ児童

### ②目指す児童像(学校)

全学年・全教科において、精査した情報から自分の考えを形成する思考力や目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合う表現力をもつ児童

## 2 本研究の具体的な手立て

### (1)学習課題の工夫

少人数学級・個別指導における課題では、「消極的な児童が多い」「授業が児童対教師で進められている」ことが挙げられている。このような課題を解決するためには、主体的に活動できる学習課題の設定や個別最適な学びを実現することが必要である。このようなことから、本研究の具体的な手立てとして、3つの学習の工夫を挙げる。児童が主体的に取り組めるような学習課題を提示することが、児童の思考力や表現力を育成するためには必要である。

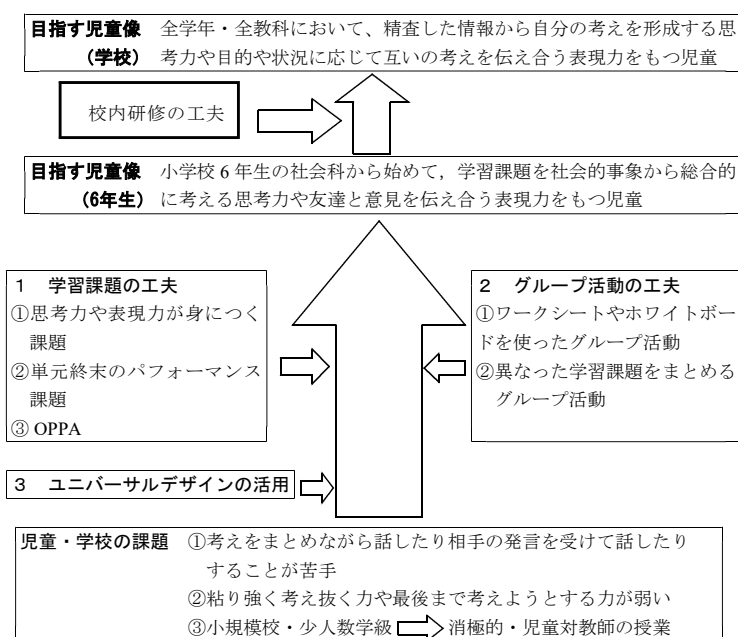


図1 研究構想図

### ①逆向き設計に基づいた思考力や表現力が身につくような学習課題

一つ一つの授業に単元末の「パフォーマンス課題」を念頭に置いた、思考力や表現力が身につくような学習課題を設定する。つまり、「逆向き設計」で各授業の学習課題を考えていく、ということである。このような学習を繰り返すことで、児童が見通しをもって取り組み、思考力や表現力を身に付けることができると考える。

### ②単元の学習を総合的に考えられるような「パフォーマンス課題」

各単元の最後に、単元をまとめとなるような「パフォーマンス課題」を児童に提示する。パフォーマンス課題は、今までの学習を総合的に考えて答えることができるものを用意する。このような学習を繰り返し行うことにより、主体的に自分で調べ考える力を身に付けていくことができるようになる。これは、思考力や表現力を向上させることに有効であると考えられる。

### ③ワンページポートフォリオ評価(OPPA: One Page Portfolio Assessment)

OPPシートを作成することで、児童自身が一つの単元を振り返り、次の学習につなげていくことができると考える。OPPシートの表には、各授業の最後のまとめを記入できるようにして、児童が学習過程を確認しやすくする。裏には、年表やワークシートを取り入れ、

児童が整理しやすくする。この1枚を見ることで、児童は、単元における学習の振り返りや自己評価を行うことができるようになる。

## (2) グループ活動の工夫

少人数学級では、「消極的な児童が多い」「授業が児童対教師で進められる」ということが課題となっている。それを解決するために、児童同士が主体的に活動できるグループ活動が行えるような「場の設定」を意図的に行うことが必要であると考えている。

### ①ワークシートやホワイトボードを使ったグループ活動

最初に、児童に学習課題を提示し、児童自身が調べたことや意見などをワークシートやホワイトボードに書く。それをグループ内で伝え合う。その際に、質問をし合ったり、友達の意見を聞いて自分の意見を改善したりしていく。このような活動ができる場を意図的に繰り返し設定していくことで、児童が自分の考えを見直したり深めたりしていくことができるようになる。また、ワークシートやホワイトボードに考えをまとめて記入したり、友達の前で発表したりすることで表現力が育成されていくと考える。

### ②児童に異なった学習課題を与え、それをまとめるグループ活動

授業の目標に向かえる異なった学習課題を、それぞれの児童に用意をし、児童は各自、自分の役割の学習課題を調べまとめる。その後、グループとなり、自分の役割の場所を発表し、グループでまとめて、一つの答えを導き出す。このようなグループ活動を行うことで、児童が個別の課題をもち、主体的に学習を進めることができるようになる。また、個々の児童の意見をまとめてグループの意見とすることは、思考力の育成につながると考える。

### ③児童の能力に応じたチェックリストの活動

グループ活動に必要な能力をもとに作成したチェックリストを用意する。チェックリストを2つ用意し、児童の能力に応じて使用していく。チェックリストは、児童に公開し、グループ活動に必要な能力を確認させて、児童一人一人が、それに向かい能力向上が図れるようにしていく。教師は、このチェックリストを使い、児童が能力向上ができるように助言や提案を行っていく。

## (3) 学習のユニバーサルデザインの活用

学習課題は、児童一人一人の能力に応じて、視覚的に理解しやすいように、絵や写真などを使って提示したり、文章を理解しやすいように簡単な言葉で説明したりしていく。このような工夫を行うことで、児童の学習課題の理解が進み、意欲的に活動できるようになる。

## (4) 学校全体へ広げていくための手立て

校内研修のテーマの中に、これらの手立てを組み込むことにより学校全体で思考力や表現力を育成することができるように考える。

## 4 授業実践

本実践は、令和3年度に高崎市立上室田小学校の第6学年の児童(3名)対象に実施した。

表1 パフォーマンス課題の実践計画

月	実践1 (5月)	実践2 (7月)	実践3 (10月)
単元	縄文のむらから古墳のくにへ	貴族のくらし	戦国の世から天下統一へ
課題	米づくりが始まった頃から国土統一まで様子をまとめよう。	平安時代の文化のキャッチコピーを考えよう。	どちらの武将が天下統一への働きが大きかったか考えよう。

授業実践において、一つ一つの授業での逆引き設計に基づいた学習課題や単元末のパフ

パフォーマンス課題を OPP シートに書くことを繰り返し行い、文章で分かりやすく書くことや様々な資料から必要事項を見付けまとめて書くことなどの活動を行ってきた。授業では、日本の歴史を中心に行った。歴史の学習は、子供たちにとって身近でないことが多いために興味関心をもたせる必要があった。そのため、資料を拡大して黒板に提示したり、一人一人が持っているタブレット端末に資料や写真を送って提示したりした。10月に行った「戦国の世から天下統一へ」の学習では、最初に長篠の戦いの屏風絵を見て、室町幕府が衰えて戦国大名が現れたことや、鉄砲などを使った新しい戦法が行われるようになったことなどを知った。また、本小単元の全授業において、OPP シートに自分の考えを記入させる活動を行った。次に、戦国時代の日本と外国のつながりを調べたり織田信長や豊臣秀吉が天下統一に向けた戦いや政策について調べた。ここでは、児童のタブレット端末にキリシタン大名の印や安土城、検地の様子などの写真や資料を送り説明することで、児童の理解を深めることができた。また、グループ活動を行い、発表し合ったり質問し合ったりすることで、表現力や思考力を高めることができた。最後に、OPP シートを見ながら、本小単元の振り返りを行った後に、「二人の武将のうち、天下統一に向けての働きが大きかったのはどちらか」というパフォーマンス課題を投げ掛け、児童に選ばせた。OPP シートには、選んだ武将の働きを記入した。そして、グループになり意見を伝え合ったり質問し合ったりして、意見交流をした。

## 5 検証

### (1) 社会科単元テスト

社会科単元テストの結果を基に、子供たちがどのように変容していったかを検証した。

前半は、到達度のばらつきが見られたが、だんだん上昇していき、後半は高い到達度となった。

### (2) OPPAの活用

初めは、教科書の文章をそのまま抜き書きしたり箇条書きで書いたりしていた。しかし、後半になると、資料や教科書の本文を見て、総合的に考えて文章で書くことができるようになった。

### (3) 単元末のパフォーマンス課題の評価

初めは、教科書の言葉をつないだだけの文章を書いたり、パフォーマンス課題に的確に答えていなかったりしていることがあった。しかし、だんだん自分の書いた OPP シートを見たり、自分の言葉で分かりやすく文章を書くことができるようになってきた。

### (4) グループ活動の学び方に関するチェックリスト

グループ活動の学び方に関するチェックリストを数値に置き換えて、学年初めからの変容を検証した。

表 2 社会科単元テスト結果(到達度:%)

	1 政治のしくみ	2 子育て支援	3 縄文と古墳	4 飛鳥と奈良	5 一学期まとめ	6 平安と鎌倉	7 戦国時代
A さん	95	100	90	90	99	88	98
B さん	93	95	83	63	98	73	93
C さん	60	60	73	48	88	55	88

初めは、取り組み方が分からずうまくグループ活動に取り組めない場面が見られたが、「グループ活動の学び方チェックリスト」を児童に示し、視点を明らかにしたところ、全児童がグループ活動に対する学び方が向上した。

表3 グループ活動の学び方に関するチェックリスト集計結果

(月別平均値：10点満点)						
	4月	5月	6月	7月	9月	10月
Aさん	6.8点	8.3点	10点	10点	10点	10点
Bさん	6.5点	9点	9点	10点	10点	10点
Cさん	1点	1.3点	3点	5.5点	6点	7点

※よくできる◎2点 できる○1点 もう少し△0点 として計算している。  
 ※チェックリスト項目  
 ①進んで活動に参加している。②相手に聞こえる声で、はっきりと話している。  
 ③自分の意見を書き、相手に伝えることができる。  
 ④友達を見て、意見をしっかりと聞くことができる。  
 ⑤グループ活動での役割を行うことができる。

## 6 考察

### (1) 学習課題の工夫

毎時間、逆向き設計の基づく学習課題を取り入れたことで、課題解決に必要な事柄を見付け、文章で分かりやすく書くことができるようになった。このような学習を行ったことで児童の思考力や表現力が育成されたと考える。また、小単元末にパフォーマンス課題を取り入れたことにより、だんだん小単元の学習内容を総合的に考え、自分の言葉で書くことができるようになってきた。これは、教科書の本文や資料から、課題解決に必要な事柄を見付けて、文章で分かりやすくまとめることができるようになってきたことであり、主体的に自分で調べ考える力が育成されてきたことであると考え。これらの学習課題をOPPシートに記入していったことは、児童自身が自分の学習を振り返り、学習を自己評価できるようになった。これは、思考力や表現力の向上につながったと考える。

### (2) グループ活動の工夫

少人数学級における課題である受け身的な学習を主体的な学習に改善させるために、グループ活動などの「場の設定」を意図的に行った。「グループ活動の学び方チェックリスト」を作成し、グループ活動で必要な視点を児童に提示した。その後グループ活動を進めていくうちに、全ての児童のグループ活動の能力が向上した。そして、自分たちでグループ活動を行い、自分の意見を発表したり、友達と質問したり答えたりすることができるようになった。このような学習を行うことで児童が主体的に活動できるようになったと考える。

### (3) 学習のユニバーサルデザイン

タブレット端末を活用することで、児童が手元で資料や写真などを拡大して細かいところまでよく見たり、教師が特に見せたい資料や写真などを見せたりでき、学習課題をよく理解し解決に向けて意欲的に学習できるようになった。また、OPPシートの記入する時間を授業の中盤にすることで、それぞれの児童に個別指導をする時間が生まれ、一人一人に合った支援を行うことができるようになった。このように、学習のユニバーサルデザインを活用することは、一人一人の能力に応じた支援ができるようになると思う。

### (4) 少人数学級

個々の様子を見ながら授業を進めるために、授業中の児童の自由な発言をある程度容認し、教師が授業に関連する発言や疑問を拾い上げ考えさせることにより、学習課題をより深く理解できるようになると考える。また、グループ活動では多様な意見が出づらいため、児童から出た意見では足りない部分を教師が補うことで、考えを広げることになる。

## 7 参考文献

堀哲夫(2020).新訂1枚のポートフォリオ評価 OPPA 1枚の用紙の可能性 東洋館出版